

「町のリビング」にある、未来をつむぐ「居場所だらけの学校」 幼小中一貫義務教育学校「中頓別学園」

義務教育学校「中頓別学園」の特色（成長の連続性に合わせて）

▶中頓別学園では、公立学校としてはまれな「幼小中一貫教育」で、**前期（1～4年）、中期（5～7年）、後期（8～9年）**の3つの期間に義務教育期間を区切り、**発達段階に応じたきめ細やかな教育**を行います。

▶認定子ども園から前期課程への**スムーズな接続を支える中頓別独自の「架け橋プログラム」**も用意し、園から小学校、小学校から中学校への進学時に環境が大きく変わることでの起りがちな不安や戸惑い（小1プロブレム、中1ギャップ）をなくし、子どもたちが安心して学び続けられるのが特長です。

▶中頓別で育つ子ども達を、園・学園の先生方が協力し「**みんなでみんなを育てる**」、地域や教育委員会とも協働し「**みんなで見守り応援し合う**」中で、一人一人の良さを伸ばしていきます。

▶こども園から取り組んでいる「**自然体験活動（森のこども園）**」や「**英語教育**」、今も多くの総合学習の時間を教育委員会が伴走している「**地域学習**」など、**中頓別らしさをいかした教育**をさらに進めていきます。



中頓別学園

町民の皆様、いよいよ令和8年4月に中頓別町の新しい学校、幼小中一貫義務教育学校「中頓別学園」が仮校舎にてスタートします。

これまで統廃合した町の学校、中頓別小学校・中頓別中学校の歴史を受け継ぎ、認定こども園からの切れ目のないスムーズな接続に向けて保育から教育へ「つくるつながるつみあげる」を合言葉に、子どもたち一人一人が主役となる「未来をつむぐ居場所だらけの学校」を目指します。

人生100年時代を支える子どもたちへの教育が、この町で、さらに豊かに進化します。

（※令和9年度に「新しい施設」が完成予定です）

義務教育学校って？（小中一貫校との違いは？）

- ▶義務教育学校は、学校教育法という法律に基づいて設置されています。2016年（平成28年）に学校教育法が改正され、小学校、中学校などと並ぶ新しい学校の形態として「義務教育学校」が正式に定められ、新しい学校の形として全国に広がっています。
- ▶義務教育学校は、法律で認められた「9年制の1つの学校」です。そのため、校長先生は1人で、先生方も「義務教育学校の教員」として9年間全体を見通した教育活動がしやすくなります。簡単に説明すると、小中学生全員を小中学校の先生方が協力して指導することが法律上認められるため、交流だけでなく学習も「みんなでみんなを」指導支援することが可能になります。

	義務教育学校	一般的な小中一貫学校
学校の数え方	1つの学校	2つの学校(小と中)
校長先生	1人→統合した場合の校長先生1人分は、直接児童生徒を指導できる教職員として配置できる	2人(小と中)
先生の所属	1つの教員組織に所属。9年間通じた指導が可能	それぞれの学校のみ指導
法的な位置づけ	学校教育法に定められた正式な学校の種類	設置者の工夫による連携

- ▶一般的な小中一貫校（正式には「小中一貫型小学校・中学校」と呼ばれます）は、既存の小学校と中学校が連携を強めて一貫授業を行う形態です。学校は別々のままなので、校長先生や教員組織もそれぞれ存在するため、小中それぞれに乗り入れて、指導支援するには法律上の制限があります。
- ▶義務教育学校は「一つの学校」として制度化されている点が、最も大きな違いです。これにより、より柔軟で一体的な教育課程（カリキュラム）を編成することが可能になります。社会課題でもある、児童生徒の不登校や多様化、教職員不足改善を進める国の取り組みの1つです。
- ▶中頓別学園では、校長先生が1人になる分で教科指導の先生を増やしたり、小中別々の場合、年度で教職員の増減が極端にならないように「義務教育学校制度」を活用し、出来るだけ安定した教職員数で、児童生徒を協力して見守っていけるように工夫していきます。

つみあげて

令和5年7月の合同学校運営協議会での教育課程原案提示から約2年、▼新しい学校をみんなで考える会議▼中頓別学園全体協議会▼なかとんミレーティング地域版▼学校づくり授業▼学校づくり委員会▼総合教育会議▼定例教育委員会▼町民・保護者アンケート等、様々な競技の場を経て「4つの教育の柱」を含めた「中頓別学園の教育ビジョン」にまとめました。

R8年度開校予定（仮校舎） ©中頓別町教育委員会新しい学校づくり推進室

幼小中一貫義務教育学校「中頓別学園」教育ビジョン

中頓別学園は、R9年度完成予定の「人生100年学びの拠点・中頓別学園」で教育活動を展開します

中頓別町教育大綱 未来思考【共生】まごころ・きく・はなす【共創】一緒にやってみる【好奇心】わくわくする

中頓別学園 教育目標

未来をつむぐ 居場所だらけの学校 「中頓別学園」

中頓別学園の教育目標

- 1つをつくる
 - ・選ぶ、考え、自ら決める
 - ・主体的に学びの能をとる
 - ・多様な視点を持ち、協働で学びを深める
- 2つをつなげる
 - ・人とつながり、地域とつながる
 - ・安心と信頼に根ざした関係を築く
 - ・対話を重ね、豊かな心を育む
- 3つをつみあげる
 - ・挑戦と経験を重ね、成長を喜びあう
 - ・ありのままの自分を大切に、自分らしさを育む
 - ・ウェルビーイングな未来を描き、歩む

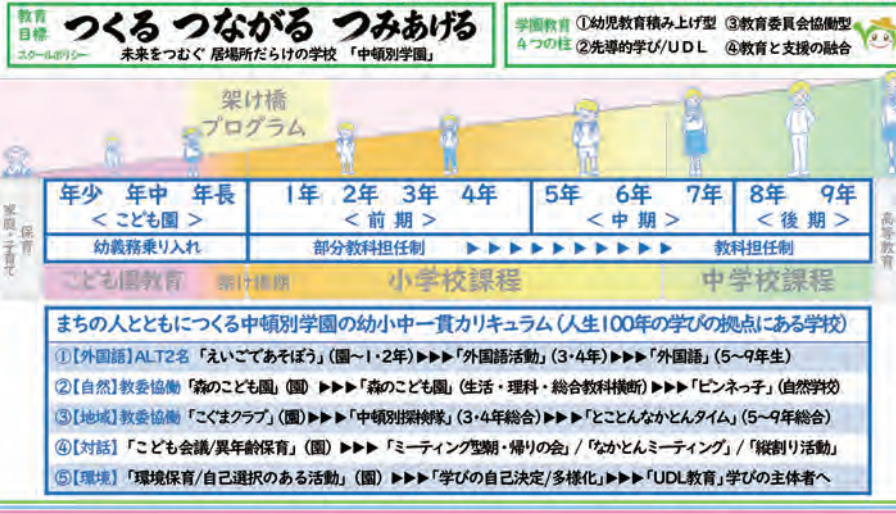
中頓別学園の教育 4つの柱

- 1「幼児教育積み上げ型」
 - ・こども園から取り組んでいる「体験活動や英語教育」
- 2「先導的学び」
 - ・一人一人合わせた個別最適な学習とUDL教育
- 3「教育委員会協働型」
 - ・地域と創る学校、地域全体が学びの場
- 4「教育と支援の融合」
 - ・だれ一人取り残さない居場所だらけの学校



幼小中一貫義務教育学校『中頓別学園』教育概要・区分

中頓別学園は、R9年度完成予定の「人生100年学びの拠点・中頓別学園」で教育活動を展開します



未来思考

中頓別町の教育大綱は、「未来思考」共生・共創・好奇心です。教育大綱とは、学校教育だけでなく、地域の歴史や文化の振興、生涯学習、スポーツなど幅広い内容が含まれる総合的な計画です。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」という法律で、自治体の長が定めることが義務付けられています。未来思考につながる義務教育を進めます。

中頓別の子ども達と新しい学び(次期学習指導要領に向けて)

▶**学習指導要領**とは、文部科学省が定める、全国の学校などにおける教育の内容の基準です。

「学校で何を、どのくらい教えるべきか」という、国が定めた教育の「設計図」や「ガイドライン」のようなもので、10年に1度改訂されます。

▶現在の学習指導要領は **2020 年から「令和型の教育」**といわれ、教育のアップデートが進められています。2030 年の方向性も示され、中頓別学園も新たな学びに向かっています。

▶**中頓別の子ども達の様子**をしっかりと見つめ直すと「素直で優しく、まじめに頑張る子ども達」という共通点があります。その反面、「表面上は元気に見えるけど実は、不安や葛藤、孤独を抱えている」子どもがとても多い(全国平均の約2倍)こともわかりました。

▶次期学習指導要領の「好き」を育み「得意」を伸ばす、対話で「自信と安心をつくる」という**新しい学びの方向性は、中頓別町の子ども達にもとても大切な力**につながります。

次期学習指導要領の方向性

生涯にわたって主体的に学び続け
多様な他者と協働しながら
自らの人生を舵取りできる
民主的で持続可能な
社会の創り手をみんなで育む



中頓別学園の教育 4 つの柱に向けて取り組みは始まっています

① 幼児教育積み上げ型

- ▶ 森のこども園に、小中学校の先生方も交代で参加し、どんな経験をしていくか？体験研修を始めています。
- ▶ また、独自の「なかとん架け橋プログラム」を実施し、こども園の「架け橋コーディネーター」が園と学校を行き来し、放課後の居場所づくり（放課後くれよん）も始めました。小・中・教育委員会からも、こども園へ出前授業を行うなど、お互いの成長に有効な活動は一緒にするようにしています。こども園・小学校・中学校・地域合同避難訓練にも挑戦しました。



② 先導的学び (UDL 教育)

- ▶ 先行授業の取り組みも進んでいます。UDL(学びのユニバーサルデザイン) の視点を取り入れることで、学校に苦しさを感じていた生徒も教室で一緒に学ぶことができるなど成果も早速見えてきています。
- ▶ 引き続き研修を進めながらどの子にとっても集中して学びやすい環境づくりを、建築準備と合わせて進めていきます。



※UDL(学びのユニバーサルデザイン) とは、主体的に学ぶことができる学習者を育てる理論的枠組みです。自分の学びを自分で舵取ることができる学習を育てます。

③ 教育委員会協働型

- ▶ 総合学習を中心に、地域学習の多くは、地域コーディネーターと指導主事（宗谷管内唯一の設置）を中心に教育委員会の伴走で授業を進めるようにしています。「なかとんミーティング地域版」の時間は、児童生徒も地域の方も楽しみにしてくれる活動に育ってきました。地域の方と先生方が交流できる貴重な機会でもあります。普段少人数の限られた中で生活している分、多世代の多様な対話をするこは、成長やキャリア形成にとっても大事だと実感しています。児童生徒全員に等しくこの様な場を設定できる授業として行う大切さや学校教育の意味を大事に地域と育つ学校を目指します。



④ 教育と支援の融合

- ▶ 高校に入学した時、社会に出た時に、他の市町村の学びとスムーズになるように、中頓別町が未導入だった教育環境や支援制度を開校を待たずに整えていきました。まずは、今学んでいる子ども達を大切に準備を進めました。
- ▶ AI ドリルの導入、教育支援センターやなかとんフリースクールの設置、通級指導の配置、特別支援奨励費の活用、特別児童扶養手当の活用などを進めました。保険福祉課や地域の方にも協力いただきながら、多様な学びと支援が受けられるようにしています。UDL 教育と合わせてどの子もしっかり学べる環境づくりを進めています。



新校章について



中頓別学園

- ▶ 中学生がアイデアを出し、連携協定を結んでいる北海道教育大学のお力をお借りしデザインしました。児童生徒と先生方や地域・保護者の方と対話しながら考えた「こんな学園にしたい、中頓別のここが好き」の気持ちもたくさん込めています。
- 子ども達が大好きな中頓別の自然（雪の結晶、パーチャン川、芝桜、森、ピンネシリ山）を融合、「中頓別学園の教育 4 つの柱」をもとに配色、中頓別小学校・中学校の校章を引き継ぐ円形のデザインです。
- ▶ 制作：北海道教育大学岩見沢校 美術文化専攻 ビジュアルデザイン研究室
中丸涼乃・花越陸・黒川結菜・山崎樺乃
- ▶ 協力：北海道教育大芸術・スポーツ文化研究所 理事 大西洋
- ▶ 原案：中頓別中学校生